

◆西 委員 お疲れさまです。創志会の西でございます。時間の関係と、それから午前中の質問と重複がありますので、おむつ持ち帰りについては上野委員の質問と重複があるので、もうこの項目は割愛をさせていただきたいと思っています。

通告の順番を少し入れ替えながら質疑をしますが、御容赦ください。

3 款民生費、1 項生活保護費、1 目生活保護総務費、生活相談コンシェルジュについてお聞きをしたいと思います。

生活相談コンシェルジュの概要について御説明ください。

◎宮井 生活援護管理課長 新型コロナウイルス感染症の影響により、経済面をはじめとする様々な困り事を抱え、適切な相談先が分からない方への対応をきめ細やかに行うことを目的として、令和 3 年 1 2 月から本庁舎内に臨時的な窓口である新型コロナ・生活相談コンシェルジュを開設し、相談に対応いたしました。

また、令和 4 年 4 月からは、ウィズコロナ、アフターコロナを見据え、新型コロナウイルス感染症の影響による困り事以外にも対応するため、生活相談コンシェルジュと名称を改変し、より市民に近く、利便性が高い、各区保健福祉総合センター内に常設の窓口として開設をしています。以上です。

◆西 委員 きめ細やかに対応を行うことを目的としてコンシェルジュを開設したということではありますが、ちょっと後でこのことについて聞きますが、まずコンシェルジュにおける相談実績、お示しください。

◎宮井 生活援護管理課長 令和 4 年 4 月の開設以来、1 2 月末までの相談実績は 5 3 5 件となっており、相談の経路は、電話が 4 3 1 件、来所が 1 0 4 件となっています。

主な相談内容は、生活の援助、福祉に関することが最も多く 2 3 9 件、次いで住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金等の新たな給付金制度に関することが 8 8 件となっています。以上です。

◆西 委員 この取組は非常にいい取組だと思います。丁寧に説明しようという取組だと思いますし、この意気はすごいよししたいと思います。

ただ、先ほど申し上げたように、相談先が分からない方へ、つまりいろんな情報が取りにくい方に対して、きめ細やかに丁寧に行うための窓口の名前が本当にコンシェルジュでいいんですかと思えます。コンシェルジュの言葉の意味っていろいろぶれがあると思うんですね。ネットで見てもいろいろと分からないということもありますから。

高齢者の方、特に分からないと思いますが、すり合わせしてませんが、ちょっと高齢者

と向き合ってる長寿支援課長、コンシェルジュの意味、どのように理解されますか。

◎杉中 長寿支援課長　ちょっと突然の御質問ですので、正確かどうかは分かりませんが、コンシェルジュ、私自身では相談を受ける役割の方というふうに認識しております。以上です。

◆西 委員　担当課長、それでいいですか。

◎宮井 生活支援管理課長　そもそもコンシェルジュ、ホテルに従事する方に使われていることが多いと思います。いろいろな相談、相談といいますか、お店の御案内であるとか、旅客の予約であるとか、いろんなことに対応するという方が、一般的にはそういうふうな認知のされ方かと思うんですけど。

ただ、昨今、それ以外にも例えば鉄道の窓口でありますとか、旅行会社であるとか、百貨店であるとか、いろんなところでもコンシェルジュという言葉といいますか、そういった役割の人がいらっしゃると思いますので、ある一定の認知はされてるのかなというふうには理解しております。以上です。

◆西 委員　既に担当課長と長寿支援課長、言ってる意味にすこしずれがあるんですね。思いませんか。

◎宮井 生活支援管理課長　委員おっしゃるように、コンシェルジュ、これがコンシェルジュということで外面的に定められてるわけではないというふうには感じております。以上です。

◆西 委員　長寿支援課長が悪いわけじゃないんです、当然。そうじゃなくて、言葉に意味が、幅があるんです。

皆さんだけでなく、もっと高齢の方や、長寿支援課長、高齢者というわけじゃありませんから、高齢の方やそういう方々で意味の違いがある。きめ細やかに丁寧に対応する、この言葉の、この窓口の名前がコンシェルジュでいいということは私は本当に疑問がありますが、反論できるんだったら反論してください。

◎宮井 生活支援管理課長　反論というわけではないんですけども、まずコンシェルジュというところで、今回、生活困窮に困られてるという方だけではなくして、広く相談事、相談する窓口が分からない方にも対応していくという意味で広く、敷居を少し下げて相談しやすい名称にするというところも考えました。

それと、ただコンシェルジュというだけでは意味が通じませんので、冒頭に生活相談とい

う言葉をつけまして、そのところで高齢者の方であるとか障害をお持ちの方にも分かっていたのではないかというふうに思っております。以上です。

◆西 委員 皆さん、思っただけで反論されても困るんですよ。先ほど長寿支援課長、いきなり聞いてしまいましたけど、つまりこういう言葉でちゃんと意味通じるかと思うと、こういう人に聞きました、これだけ聞いたから、議員はそう思うかもしれないけど、ちゃんと根拠があって、コンシェルジュという言葉、ちゃんと皆さん理解できる言葉なんですよと反論してほしかったんですよ。

皆さんの中で思ってるだけでは伝わらない。やっぱりこういうときは、ちゃんと、簡易な調査で結構ですから、調査をして、こういう言葉がちゃんと伝わるのかということをしかりやるのがきめ細やかな対応なんじゃないですかということをお願いして、この項目は終わります。

4款衛生費、1項公衆衛生費、4目母子保健費に関連してお聞きをしますが、弱視対策について、昨年3月、健康福祉委員会で取り上げさせていただきました。非常に皆さん、いろいろ頑張って努力をしていただいたと思います。あの時点では全然弱視対策について堺市の中で発信がなかったし、実際、ランドルト環で何かお母さんが発見できたらやっとなんとか治療に入れる。

でも、これ、早く治療しないと治らない。逆に、早く治療すればかなりの確率で治る。非常に早い早期発見、大事な中で、皆さん、非常に取組を頑張っていただいていると思いますが、令和5年の乳幼児健康診査の予算と、そのうち、視力検査を行っている3歳児健康診査の経費についても併せてお示してください。

◎村田 子ども育成課長 令和5年度の4か月児、1歳6か月児、3歳6か月児の乳幼児健康診査の当初予算案は5,761万8,000円でございます。そのうち、視力検診を含む3歳児健康診査の予算案は、医師報酬、それから精密検査などで約2,436万5,000円となっております。以上です。

◆西 委員 いろいろと皆さんが努力していただいて、いよいよ来年度から始まる、もしくは今年度中に始まるのかもしれませんが、いよいよ始まるということで、どのように実施をされるのか、お示しいただけますでしょうか。

◎村田 子ども育成課長 片眼性の弱視などを検出するのに有効とされる屈折検査は、弱視の発見を見逃さない検査体制を少しでも早く導入するため、本年3月から各区役所保健センターで実施します3歳児健康診査におきまして、検査機器を用いた屈折異常のスクリーニング検査を実施いたします。

従来から実施しています各家庭でのランドルト環を用いました視力検査と問診に屈折検

査の結果を加えまして診査を行い、精密健康診査が必要と判断された場合には、対象児に、眼科協力医療機関で精密健康診査を受けることができます受診票を交付しまして、弱視等の早期発見、早期治療につなげていきます。

これまでも健診のお知らせやホームページなどによりまして、弱視の早期発見、早期治療の必要があることを御案内、周知いたしてきましたが、屈折検査導入をきっかけにしまして、改めて広報さかい、それからホームページなどで周知を行っていきます。以上です。

◆西 委員 本場に皆さんが取り組んでいただいた結果だと思います。併用でスクリーニング検査できるというのは非常に有意義だと思います。ランドルト環だけでしたら、笑い話みたいな話ですが、ちっちゃい子に、どこ開いてますか、真ん中と言った子がいます。そういった意味でも、どこが開いてるかを表現できるまで診査できないんですよ。

だけど、スポットビジョンスクリーナーを入れれば、3歳児どころか、もっと早くから発見できる。3歳児よりもっと早く治療できるものならしてあげたいのが弱視なんです。

そういった意味で、まず最初に3歳児検査から入るとするのは非常に大きく大きく評価をしますけれども、できればもう少し先、場所によっては1歳6か月検査からやろうかなというところもあるようですから、そういうことも見据えながら、いろいろとまずはデータを収集しなきゃいけないと思いますので、取組を進めていただきますようによろしくお願い申し上げます、この項目を終わります。

3款民生費、1項社会福祉費、2目障害者福祉費、重度障害者就業支援事業についてお聞きをしますが、令和4年第1回健康福祉委員会において、就労支援とロボットの活用について議論させていただきましたが、その後の取組経過についてお示してください。

◎小須田 障害施策推進課長 その後の取組でございます。自治体を中心に、OriHimeさん、コミュニケーションロボット、これの活用事例を確認させていただきました。

神奈川県や群馬県、政令市では神戸市などで活用されておりました。また、民間でもNTTやモスバーガーといったところで活用されております。

神奈川県では、移動が困難な障害者を自宅で、在宅で勤務する会計年度職員として任用しまして、障がい者福祉ショップにおきまして障害者の新たな就労の形を発信と、いわゆる接客というような形で発信しておりました。

そして、神戸市では、ひきこもり当事者が自宅などで分身ロボットを遠隔操作して支援施設の参加者らと交流するといったようなところもありました。

いずれも特色のある取組と認識してございます。以上です。

◆西 委員 こうやってロボットを使って、本来外出なかなか大変な方がロボット経由して社会参加をする、場合によっては、自治体によっては審議会の委員にまでなられたこともあるというふうにお聞きをしたこともあります。

こうやって社会参加をすることが症状の改善なり、悪化を防ぐことにもつながってくるといふふうにお聞きをしておりますけれども、そのときにこのロボットの導入について検討していくというふうにご答弁もいただいておりますが、今の状況をお示しください。

◎小須田 障害施策推進課長 導入に当たっての検討でございますが、非常に将来性のあるツールというふうには評価しておりますのでございます。

ただ、次年度につきましては、障害者就業・生活支援事業を拡充しまして、障害者就業・生活支援センター、エマリスにおきまして就労希望者がいる福祉施設と職場体験実習に協力してもらえる企業とマッチングしていくような事業を展開したいなというふうに考えております。

これによりまして、就労希望者には一般就労の体験、福祉施設職員には実習を通したノウハウの享受をしていく予定でございます。あわせて、企業側のほうも、障害者雇用のイメージをつかんでもらうといったような形で拡充していきたいなというふうに思っております。以上です。

◆西 委員 今お示しいただいた取組をぜひ進めていただきたいと思いますが、物理的に動けない方々をこのような分身型ロボットを使うことによって社会参加に導いていく、社会参加することを可能にしていく、そういった取組がいろんな自治体で行われているわけですから、ぜひ将来的な導入を検討していただきたいと思いますが、いかがですか。

◎小須田 障害施策推進課長 将来的な導入の件ですけれども、障害者の社会参加の促進に将来性のあるツールと考えておりますのでございますが、ただ、お聞きしますとやっぱり利用に当たって周囲の協力がかなり必要であったりですとか、通信及び使用環境等によりまして使いやすさに差があったりするといったような課題も出てきているのが実情でございます。

実際、障害のある方のコミュニケーションツールとしましては、今、メタバースなどがありますアバターの活用などもございますので、今後の進捗を注視してまいりたいと考えております。以上です。

◆西 委員 メタバースでアバター活用、別にやることは否定しませんが、全く意味が違いますよね。物理的に動けない方々を物理的に皆さんが働いてる現場に分身型ロボットで参加をしていく。メタバースの中での話じゃないです。リアル空間に分身型ロボットで参加をする、そのことの意味を、私が申し上げるまでもなく、所管課の皆さん、よく御存じのはずなんです。そういった意味で、分身型ロボットで社会参加をすることについて積極的に検討していただきたい、それを申し上げて、この項目は終わります。

3 款民生費、1 項社会福祉費、第 4 目老人福祉費、高齢者健康増進施策についてお尋ねを

したいと思います。

令和4年9月の健康福祉委員会で井関議員から、アスマイルのダウンロード数で事業の成果をはかろうとすることに疑義を唱える御意見がされました。登録数と同じですね、ダウンロード数というのは。

まさにこれは、我々としても思いを同じくするところでありまして、なけなしの738万円を投じるに値するのか、主体的な評価をぜひ皆さんにさせていただきたいというふうにずっと思っていますけれども。

令和5年度当初予算案の内容と実施予定の取組についてお示してください。

◎杉中 長寿支援課長 高齢者健康増進施策に係る令和5年度当初予算案といたしましては、大阪府が運営する健康アプリ、アスマイルに市町村オプションを付加するための経費といたしまして、事務局運営等に関する手数料を187万円、システム利用料を396万円、ポイント原資を200万円、合計783万円を計上しております。

この予算の下、令和5年度におきましては、令和4年度にアスマイルの普及促進の取組の中で培ってきた様々な関係機関との連携を生かし、さらなる普及に努めることに加えて、アスマイルの活用状況に応じて堺市独自のポイントを付与するなど、利用者の主体的、継続的な健康活動を促す取組を強化したいと考えております。以上です。

◆西 委員 今年度に入ってからからの堺市の登録者数の増加数、増加率についてお示してください。

◎杉中 長寿支援課長 アスマイルの市内の登録者数につきまして、昨年3月末時点から12月末時点の9か月間で1万5,969人から2万2,020人まで6,051人増加しており、伸び率は37.9%となっております。以上です。

◆西 委員 これは、皆さんが非常に努力をされたというふうにお聞きをしていますし、何か聞くとところでは本会議でいろいろ議論になったから意地でも到達してやるということで皆さんで頑張っておられるというふうにお聞きをしていますけれども、これ、冷静にいろんな議論をしていかなくちゃいけないというふうに思うわけですね。

前回の12月の健康福祉委員会では、何か783万円なり738万円ですか、700万円強のお金を使って目標の5,000人が達成できそうだと、かのようなお話がありました。これが6,051人という数字と連動しているというお話だと思いますが、皆さんの頑張りは頑張りで素晴らしいと思います。ただ、この効果、予算効果というのはしっかり議論しなくちゃいけないというふうに、そこを交ぜて議論しちゃう駄目だと思うんですね。

この間、大阪全体で伸びは、どれぐらい伸びてるんですか。

◎杉中 長寿支援課長 大阪府全体でのこの間のアスマイルの利用者数は28万1,417人から32万8,517人まで4万7,100人増加しており、伸び率は16.7%となっております。以上です。

◆西 委員 これ、政策評価論的にいうと、16.7%、大阪府全体の伸びですから、伸び率37.9%のうちの21.2%は、これ、堺市の頑張りだと思いますが、16.7は、堺市の頑張りにかかわらず、大阪全体の平均的伸び率ですよ。そのところ、まず評価をしていかなくちゃいけないというふうに思うわけです。

続いてお聞きをしますが、そのうち、市町村オプションの対象は60歳以上と聞いてますが、60歳以上については堺市はどれぐらい伸びたのでしょうか、お示してください。

◎杉中 長寿支援課長 市町村オプションの対象となっております60歳以上の方につきましては、同じく昨年3月末時点から12月末時点の9か月間で5,084人から9,107人まで4,023人増加しており、伸び率は79.1%となっております。以上です。

◆西 委員 伸び率は79.1%ということであります。

今年度、堺市の伸び率と高齢者の、60歳以上の伸び率の差が41.2%、数字に換算すると2,094人ということになります。

高齢者の登録者数は、そういった意味では堺市の、大阪の伸び率、そして堺市の皆さんの頑張ったことについて全体の伸び率、その上に高齢者の皆さんの伸び率ということがあります。この差が先ほど申し上げたように41.2%、2,094人ということだと思いますが、これは皆さんの頑張り分として積極的に評価をしたいというふうに思いますが、これはどのようなことをされたんですか。

◎杉中 長寿支援課長 今年度のアスマイルの普及促進に向けた取組につきましては、まずはより多くの高齢者の皆様にアスマイルを知っていただき、使っていただきたいと考えたことから、本年7月よりアスマイルに市町村オプションを付加し、60歳以上の市民の方を対象に抽せんで1,300人に2,000円分の電子マネーが当たる新規登録キャンペーンを展開してまいりました。

この新規登録キャンペーンの下、広報さかいにおける7月号、1月号の特集記事や関連記事の掲載、市ホームページや公式SNSでの情報発信、堺市独自のPRチラシや新規登録の手引の作成・配布、市施設でのチラシ配布、介護保険料通知など市から送付する各種通知でのPRなど、様々な機会でもアスマイルについての周知を図ってまいりました。

また、各区のふれあいまつりや健康増進イベントなど、高齢者が多く集まる市内の様々なイベントに健康福祉局の若手職員を中心に編成したアスマイルの登録サポート隊を派遣して、アスマイルの紹介や登録サポートを実施してまいりました。

さらに、堺市自治連合協議会に依頼し、市内全域で回覧板を回していただいたほか、堺市社会福祉協議会や堺市シルバー人材センター、堺市老人クラブ連合会などの関係機関はもとより、堺商工会議所や包括連携協定締結企業、携帯電話ショップ運営事業者、各種スポーツチーム等とも様々な形で連携し、アスマイルの周知、PRに努めてまいりました。以上です。

◆西 委員 非常に頑張っていたということだと思います。特に、若手職員を中心に編成したアスマイルの登録サポート隊をお聞きしてはいますが、皆さんは本当に休日まで出ながら頑張っていたんじゃないかと、いろいろと大変な思いをして頑張っていたということだと思います。

感謝をしたいというふうに思いますが、皆さん、今おっしゃった御答弁の中の新規登録キャンペーンの下、広報さかいで広告を頑張りました、公式SNSで発信をしました、各種通知でPR、ふれあいまつり、イベントで広報しました、連合自治会、私も役員ですけど、PRしました、これはまさに、私は言い方が大嫌いですけども、ゼロコスト、ゼロ予算なんですよね。新たな予算をかけずに市の職員が頑張った分はゼロコスト、ゼロコスト、もうこの言い方が大嫌いですけど、市の職員さんが頑張ってることを冒涇してると思うから大嫌いなんですけど、ゼロコスト予算です。

予算の評価とはちょっと別口になると思います。しっかりと政策評価はしていかなきゃいけないと思いますので、このことはしっかり申し上げたいと思いますが、そうすると、市町村オプションの純粋な効果としては、一体どのようにお考えか、お示してください。

◎杉中 長寿支援課長 先ほども申し上げましたとおり、今年度にプロモーションをする際には、楽しく健康活動を続けることができるというアプリそのものの魅力に加えて、市町村オプションを基にした60歳以上対象のお得な新規登録キャンペーンを常にセットでPRしてきたため、キャンペーンだけの純粋な効果を切り離して示すことは難しいものとなっております。

ただ、昨年度末時点では、市内の全登録者のうち、60歳以上の方の割合は31.8%でしたが、今年度12月末までに増加いたしました登録者数に占める60歳以上の方の割合は66.5%となっております。

また、昨年11月から12月まで、アスマイルのアプリ上で利用者に対して行いましたアンケート調査では、キャンペーンを開始した昨年7月以降の60歳以上新規登録者の43.2%がアスマイルを利用しようと思った理由といたしまして、新規登録キャンペーンがあったことを挙げておられます。

こうしたことから、市町村オプションが登録者数の増加に寄与したのは間違いものと考えております。以上です。

◆西 委員 先ほど、私の試算では大体2,000人分ぐらいが堺市の皆さんの頑張りじゃないかと。この中では、皆さんの悪名高いゼロコスト予算も含むですけれども、大体評価としてあるんじゃないかというふうに申し上げました。

じゃあ、皆さんが今いろいろと、何か指標をいろいろとまちまちと変えて、こんな効果もある、こんな効果もあるとおっしゃいました。この指標の出し方がまちまちなこと自体が政策評価というものをあまり配慮していただけてないんだなと残念に思うわけでありましてけれども、60歳以上の割合が66.5%、そして昨年度時点では31.8%、60歳以上の方の割合が増えた、その差34.8%です。新しく増えた登録者数は6,051人ですから、これ、割合掛けると何人分増えたと言えますか。

◎杉中 長寿支援課長 6,051人に34.7%を掛けますと約2,100人となります。以上です。

◆西 委員 やはり2,000人前後ですね。先ほどアンケートの中で新規登録キャンペーンの効果としては、43.2%の方が利用、アスマイルを利用しようと思った理由として新規登録キャンペーンがあったということ挙げられているとおっしゃいました。それ、何人ですか。

◎杉中 長寿支援課長 今年度増加しました60歳以上の方4,023人に43.2%を掛けますと1,738人でございます。以上です。

◆西 委員 これ、大体2,000人に収れんしてくるんですよ、いろんな見方をするけど。結局、2,000人収れんするということですけども、先ほどの答弁からすると、2,000人前後に思われますけれども、そこに738万円の予算をかけるだけの価値があったのか、1人当たりにしたら3,690円も登録のためだけにかかっているんです。この人たち、健康になったわけじゃないんです。そのことについてのお考えをお示してください。

◎杉中 長寿支援課長 先ほど来御答弁しておりますように、高齢者への普及が進んだのは、市町村オプションの付加で実施できました新規登録キャンペーンの下、大々的にプロモーションを行ってきたからと認識をしております。

確かに様々な手法を駆使してプロモーションを行ってきたのは事実でございますが、その際に新規登録キャンペーンで2,000円が当たるということが大きなアピールポイントとなっております。

また、市町村オプションの効果は、堺市独自ポイントで新規登録キャンペーンを実施して、60歳以上の登録者を増やしたことだけではなく、アスマイル利用者に向けた堺市独自のアンケートを実施し、アスマイルの利用動機やアスマイル利用後の行動、意識の変化の分析

を行うこともできております。

さらに、アスマイルに登録できる堺市実施イベントの数も倍増したため、アプリ上で広くイベントへの参加を呼びかけた結果、7月から12月末までに延べ約6,000人の市民の方がこうしたイベントに参加しておられます。

健康長寿の実現をめざす本市といたしましては、高齢者の自発的な健康活動を促進していくことが重要であることから、アスマイルに市町村オプションを付加して、これまで申し上げたような様々な形での効果を生み出してきたことは大きな意義を持つものと考えております。以上です。

◆西 委員 意義を議論しているんじゃないんです。意義はあったと思います。効率論を申し上げている。皆さんの分析の仕方が非常に甘いんじゃないかということを上げている。そのことをもう少ししっかりと議論していただきたい。

ゼロコスト予算も含めて2,000人の登録者数を確保できた、それでコストは3,690円、ゼロコスト分を除いたらもっと効果はないですよ。もっと高額のコストがかかっていることになる。それでいいんですかと申し上げている。もう少し冷静に評価をしていただきたいと申し上げて、この項目は終わります。

時間がありません。簡単に終わらせていただきたいと思いますが、3款民生費、3項児童福祉費、1目児童福祉総務費に関連してお聞きをしますが、令和3年度の本市の決算額で余剰金が発生していることや、また令和3・4年度の2年間、子ども青少年局の施策として市独自の子育て世帯を対象とした各種給付金を支給してきたことなどを踏まえると、そもそも第2子保育料無償化については延期せずに実施することができたんじゃないでしょうか、お示してください。

◎長尾 幼保推進課長 令和2年2月公表の財政収支見通しでは、推計期間中、約40億円から60億円の収支不足が続き、基金残高は令和9年度に枯渇するという見込みでありました。

また、令和2年時点では、新型コロナウイルス感染症の影響により、歳入では市税収入の減少などが避けられず、歳出では感染症に係る対策経費や社会保障関係費の増加が見込まれることから、財政状況はさらに厳しくなることが予想されておりました。

そのような中、第2子保育料無償化については、毎年約8億円の市単独経費を要する施策であり、当時の財政状況では事業の実施は困難と判断し、令和2年9月に実施の延期を決定したものでございます。

なお、子育て世帯を対象とした各種給付金については、コロナ禍における経済的負担軽減を目的に臨時的な施策として実施したもので、国の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用して実施したものでございます。以上です。

◆西 委員 第2子保育料無償化の実施を延期したことで多くの子育て世帯の人生計画に変化を与えたと思いますが、どのような影響があったと認識されているか、お示してください。

◎長尾 幼保推進課長 第2子保育料無償化の実施の延期については、市の極めて厳しい財政状況の中でのやむを得ない措置であったことを御理解いただきたいと思います。

なお、令和3年度、4年度については、厳しい財政状況の中にあっても新型コロナウイルス感染症が社会経済に甚大な影響を及ぼしている状況などを踏まえ、特に経済的負担が厳しい子育て世帯を支援することを目的として、所得制限を設けての第2子保育料無償化を実施いたしました。

第2子保育料無償化の実施を延期したことは、直接的に子育て世帯に及ぼす影響については判断することは難しいというふうに考えております。以上です。

◆西 委員 最後の御答弁が納得いきません。人生に影響を与えるんじゃないかと、議会でも全会一致で決議をしました。人生計画に影響を与えていませんか。この1点をお答えください。

◎井上 子育て支援部長 これまで本市では、厳しい財政状況の中においても令和3年度、4年度については、年収380万円未満相当世帯の方々に対して保育料の無償化を実施してまいりました。

加えて、本市としては、できる限りの子育て世帯の経済的負担の軽減を努めるため、コロナ禍においては第2子だけに限らず、広く子育て世帯を対象とした臨時特別給付金をはじめ、新生児世帯特別給付金、ひとり親世帯応援給付金など各種の給付事業を実施してまいりました。

繰り返しの答弁になりますけれども、第2子保育料無償化の実施延期が直接的に子育て世帯に及ぼした影響について判断することは難しいと考えております。以上でございます。

○西川良平 副会長 答弁者に申し上げます。

質疑の要旨を的確に捉え、答弁されるようお願いいたします。

どなたが答弁されますか。

◎井上 子育て支援部長 繰り返しの御答弁となりますけれども、判断することは難しいと考えております。

ただ、影響がなかったか、何もなかったかと言い切れるかと、それは言い切れないと思っております。以上でございます。

◆西 委員 時間がないので、もう総括に譲りますけれども、人生計画に影響はあったんです。あるというふうに全会一致で決議してます。そのことをもう少し重く捉まえてほしいと思います。私の質問を終わります。